

科目名	言語教育 デザイン論特講	担当者	トウヤ ミツヨ 東矢 光代	期間	通年	単位数	4
-----	-----------------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	この講義ではインストラクショナルデザイン（ID）に基づき、授業デザイン（総合学習、技能別、活動型学習、協働学習などを含む）やカリキュラム・デザイン、ICTを使った学習環境デザインなどができるようになることを目的とする。前期は学習の種類、eラーニングからブレンディッドラーニングへの流れを学習する。後期はデジタル教材の教材学について学び、開発に必要な要素について理解を深める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習の種類・測定方法を理解し、eラーニングからブレンディッドラーニングへの流れを理解することができる。 2. IDの見地からeラーニング、ブレンディッドラーニングを捉え、具体事例を分析的に読み取ることができる。 3. デジタル教材の変遷とその背景にある学習観（思想）を理解できる。 4. 第2言語習得理論と教材デザインとの関係を理解できる。 5. デジタル教材開発の事例を理解し、効果実証の実験デザインを理解できる。 		
学修方法	到達目標1、2においては、基本教材1を読んで理解し、レポートにまとめることで学修する。到達目標3～5については、基本教材2を読んで理解し、レポートにまとめることで学修する。		
スケジュール	<p>基本教材1については前期（4～9月）、基本教材2については後期（10～1月）に読み、レポート課題を提出する。目安となるスケジュールは以下の通りなので、参考にしてほしい。</p> <p>4～6月：基本教材1の課題範囲を読む → レポート1-1の執筆・提出 → コメント・フィードバック</p> <p>6～9月：基本教材1の課題範囲を読む → レポート1-2の執筆・提出 → コメント・フィードバック</p> <p>10～11月：基本教材2の課題範囲を読む → レポート2-1の執筆・提出 → コメント・フィードバック</p> <p>12～1月：基本教材2の課題範囲を読む → レポート2-2の執筆・提出 → コメント・フィードバック</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	95%	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題内容を理解し、きちんとわかるように書かれているか。 2. 形式が守られているか。誤字・脱字などが目立たないか。見やすくまとめられているか。 3. 基本教材から読み取ったことと分析・考察ができていないか。 <p>前期レポート(1) 25%, 前期レポート(2) 25% 後期レポート(1) 25%, 後期レポート(2) 20%</p>
	平常評価	5%	質問やフィードバックへの対応などが適切に行なわれているか
履修者への要望	<p>本文から1文以上の単位で抜書きする場合は、引用のルールに従って“ ”（英文）または「 」（和文）でくくり、（ ）でページ数を明記してください。</p> <p>例：“The most important feature of the software here is that it is course specific (p. 154).”</p> <p>なお常識を超える大量の本文からの丸写し・抜書きは認めません。（書き直してもらいます。）また他の参考文献を用いた場合も必ず引用部分がわかるようにし、出典を書いてください。その場合はレポートの最後に「引用文献」をつけること。（「引用文献」は語数制限には含みません。）</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 宮地 功（編著） 教材名： 『eラーニングからブレンディッドラーニングへ』（共立出版，2009年） ISBN:978-4-32-012240-6 3,500円+税
	本書は前半で、多様な学習形態と測定方法を踏まえ、eラーニングおよびそれに付随する情報を詳細にまとめている。その知識を土台とし、ブレンディッドラーニングとは何か、どのようなブレンディッドラーニングが望ましいかを、インストラクショナルデザイン（ID）の理論的枠組みを使い解説し、実際のブレンド型授業を後半で紹介している。
参考図書	鈴木克明『教材設計マニュアル：独学を支援するために』（北大路書房，2002年） ISBN:978-4-76-282244-5 2,200円+税 これ以外にも、教材1の各章の最後に参考文献が記載されていますので、適宜読んで参考にしてください。
履修上のポイント	基本教材1を前半と後半に分け、2つのレポート課題としています。前半では歴史的変遷や用語の意味、概念の理解を心掛けてください。後半の中心はIDの枠組みの理解で、参考図書（鈴木）はIDに関する理解を深めるのに役立ちます。それらの知識を元にブレンド型授業の例を読むことで、教材デザインの望ましい形を意識してほしいと思います。教材は1冊ですが、先延ばしにするのではなく、計画的に前半・後半を意識して、レポートに取り掛かってください。
レポート課題1	基本教材1の第1～6章を読んで内容を要約し、学修した内容についてのあなたの考えを加えたレポートを提出しなさい。レポートは40字×40行のA4サイズを基本とし、各章の要約で約3ページ、それに対するあなたの考え（リアクション・疑問や反論を含む）を2ページ以内でつけなさい。 留意点： レポート全体として5枚におさめること。レポートにはページ番号を付け、すぐ印刷して読めるように書式を整えて提出してください。
レポート課題2	基本教材1の後半を読んでレポートを提出しなさい。まず第7章を読んで内容を1ページに要約し、次に、第8～16章の実践事例の中から2つを選び、内容の要約を行い、最後に学習した内容についてのあなたの考えを加え、レポートを提出しなさい。レポートは40字×40行のA4サイズを基本とし、7章および2つの章の要約で約3ページ、それに対するあなたの考え（リアクション・疑問や反論を含む）を2ページ以内でつけなさい。 留意点： 要約については、40字×40行のA4レポート3枚（約4,500字）程度にまとめ、最後に文字カウントを（ ）で付記する。感想については40字×40行のA4レポート2枚以内にまとめ、同じく最後に文字カウントを（ ）で付記してください。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 山内祐平（編） 教材名： 『デジタル教材の教育学』（東京大学出版会，2010年）ISBN:978-4-13-052079-9 3,200円+税
	第1部：デジタル教材の歴史と思想、第2部：デジタル教材の活用と展開、第3部：デジタル教材のデザイン論に分かれ、理論と実践のバランスが取れた良書である。基本教材1と内容的に重複する箇所もあるが、本書では特に「第2言語習得での活用（第4章）」「教材の評価（第8章）」をしっかりと押さえてもらいたい。
参考図書	島宗理 『インストラクショナルデザイン：教師のためのルールブック』（米田出版，2004年） ISBN:978-4-94-655319-6 2,000円+税 これ以外にも、教材の各章の最後に参考文献が記載されていますので、適宜読んで参考にしてください。
履修上のポイント	基本教材2には、基本教材1に出てきた理論や習得の概念と通じるところがあるので、重複する点、異なる点を意識しながら読んでいくと理解しやすい。基本教材1と同じく後期でテキスト1冊、レポート課題が前半と後半に分けて1つずつあるので、計画的に読んで行くことを勧めます。
レポート課題1	基本教材2の第1部（第1～3章）を読み、内容を40字×40行のA4レポート3枚以内にまとめて提出しなさい。最後に1枚以内の感想（コメント、リアクションなど）を一緒に提出する。レポートの最後には文字カウントを（ ）で付記すること。 留意点： 要約については、40字×40行のA4レポート3枚（約4,500字）程度にまとめ、最後に文字カウントを（ ）で付記する。感想については40字×40行のA4レポート2枚以内にまとめ、同じく最後に文字カウントを（ ）で付記してください。
レポート課題2	基本教材2の第4章、第7章、第8章の内容をそれぞれ40字×40行のA4レポート1枚ずつでまとめなさい。その上で、第10章を読み、内容についての感想（分析・リアクション）を2枚以内にまとめ、レポートとして提出しなさい。 留意点： 第4章、7章、8章の要約で約3枚、第10章に基づく部分が2枚以内なので、全体として5枚以内にまとめるようにしてください。すべて40字×40行のA4レポートとし、最後に文字カウントを（ ）で付記すること。